

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 10月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100526号
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホームうすき
所在地	鹿児島市 宇宿 2-13-17 (電話) 099-255-2835
自己評価作成日	平成28年7月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・工場地帯の中にあり、周りに民家がほとんどないという立地ではありませんが、静かで落ち着いた環境を維持できています。敷地が広いので2か所の畑で季節の野菜などを栽培し、利用者の皆様とスタッフで収穫の楽しみを分かち合っています。スタッフのほぼ半数が20代30代の職員であり、活気と笑顔に満ちたグループホームと言えるのでは、と思っております。地域におきましては、町内会に参加させていただき、定期的に交流を持っているほか、小学校中学校の資源ごみ回収にも、毎回協力させていただいています。近くに商業施設が多数あるので、都市部にある施設の特性を生かして、個別の外出レクに取り組んでおり、入居者の皆様にも大変喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○事業所は海沿いの企業が多く立地する地域にあるため、近隣との交流や万一の災害時の協力体制が難しい環境にあるが、管理者が町内会に加入し班長として活動し、地域の民生委員や行政職員との連絡網が充実している。今後は万一の災害に備え、近隣マンションや企業との連携を密に図りたいと考えている。

○理念は開設当初に職員が話し合って決めたものであるが、利用者の年齢や状態等を考慮して、現状に即した理念になっているか話し合う必要があると管理者は考えている。また、理念のほかに管理者が提案し職員間で話し合って年間目標を立て、利用者の生活や職員のケアが適切に行われているかを日々考えながら支援している。

○利用者の思いへの配慮や身体拘束をしないケアへの取り組みについては、身体拘束廃止委員会を設置して話し合いがなされ、毎月の職員会議や申し送り時等に確認し合っている。特に言葉による拘束については、何気ない言葉かけが行動を制限してしまっていないか等について繰り返し話し合い確認するなど抑圧感のない生活が送れるよう日々取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々のケアに取り入れ、習慣化できるように、朝の申し送りの後に必ず理念の唱和を行っている。	開設当初に職員で考えた理念があり、パンフレットに明記したり玄関に掲示して周知を図っている。職員は、毎日唱和することで意識し、理念に加え年度目標を立て、職員会議で振り返る機会を持ちながら毎日のケアの実践につなげている。開設して6年が経ち、現状に即した理念になっているか職員間で話し合う機会を持ちたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に参加し、小中学校のリサイクル活動に協力し、ダンボールの搬出時、子供たちとのふれあいの場になるよう、努めている。	町内会に加入し班長として回覧板を回したり、民生委員と地域のことについて話し合っている。地域交流としては、市のボランティアの受け入れや年2回の小中学校による資源ごみの回収に協力している。また、日常的に散歩や買い物に出かけた際には挨拶を交わすなど地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議等で、認知症についてのテーマを取り上げる等、家族への理解を深める努力を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等をいただき、改善につなげたことがある。	2ヵ月毎に開催し、家族や行政職員、民生委員、地域の青果店や薬局からの参加も得られ事業所の取り組みや現状報告、入居の相談のほか、避難方法について意見をもらうなど取り組むべき事柄について積極的に意見交換がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主に生活保護の担当者と、生活保護受給者の連絡相談を行っている。	行政や地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議や介護認定の更新のほか、生活保護担当の職員とも面談し事業所の現状を伝え理解につなげている。また、利用状況や空床時には地域包括支援センターや民生委員に報告するなど日頃から連絡体制を整え協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月行われる職員会議で、身体拘束について意味と内容等について、くりかえし理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議で身体拘束の種類や対応の仕方など、身体拘束をしないための話し合いを行っている。特に言葉による拘束については、繰り返し職員間で話し合っており、利用者の行動を制限するような言動に十分注意して対応するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議のたびに、その内容と意味について反復学習し、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人選定のため、利用者の診断書の提出について支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に管理者から説明を行い、何度でも利用者の不安や疑問点到に答え納得していただくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に相談苦情箱を設置している。居室ごとにメモ帳を起き伝言等記入していただくようにし、意見を運営に生かすようにしている。	利用者の意見や思いは、日常の会話や行動の中から汲み取るとともに家族からは運営推進会議や来所の際に聞き取るようにしている。また、利用者や家族の気付いたことや要望等を気軽に伝えられるように各居室に「連絡ノート」を置いている。年4回家族にお便りを送付し、事業所の出来事や利用者の様子を伝え、感想や意見をもらうようにしている。出された意見や要望は職員で共有し、実現や改善につながるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議の場で意見を求めるほか、日常のケアの中でも意見を吸い上げるようにしている。	職員の意見は、主に職員会議や申し送り時に聞くほか、日頃のケアの中で聞き取ることが多い。管理者、職員のコミュニケーションが良好で意見を出しやすい環境にある。これまでに、ユニット同士協力して調理することや運動の必要性から散歩や買い物に出かける機会を増やすなど職員からの意見を具体的な対応につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の休暇については、希望に沿って受け入れている。研修や資格取得も希望に添って配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修参加を随時促している。1年のうちに最低一回は参加することを目標としている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣グループホームとの連絡情報について共有を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学を行っていただき、本人家族が充分納得された上で決定していただいている。入居後は、訴えや要望について、充分配慮して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族の心配事について聞き取り、具体的にわかりやすく説明し、話し合いを繰り返している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始後、身体・精神状況についてよく観察し、慎重な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴、活動、参加から、本人らしさを活かした生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会でき、場合によっては止まることも可能である。状態報告を行い、協力を得ながらケアを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や知人の面会は、家族の承諾を得てから行っている。	契約時に馴染みの人間関係や場所を聞き取り、アセスメントシートに記載し、入居後も馴染みの関係が途切れないよう電話や手紙の取り次ぎ、外出の手助けを行っている。また、美容室や墓参り等は家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席や入浴の順番、又レクの内容について個々の思いに配慮し孤立しないで安心して過ごせるケアを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状態を聞き取ったり、移動後の施設病院等に面会している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向要望を必ず聞いている。困難な場合には、家族とともに検討把握に努めている。	契約時に思いや意向を本人や家族から聞き取っている。うまく伝えられない場合は入居後の生活状況や表情、ニュアンス等から汲み取るように努め、把握した内容は、申し送りノートや掲示版に書き込み、申し送り時での伝達や目を通すことで情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、サマリー情報提供書担当者などから、今までの状態把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表、ADL評価表、長谷川式などから状態の把握に努め、ケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、それぞれの意見、以降を取り入れたケアプラン作りを行っている。	本人や家族の意向をもとに、モニタリングの結果や担当職員の意見、医師や看護師の意見も参考にしながら個々に応じた介護計画を立てている。また、状態に変化がみられた場合は、現状に即した介護計画になるよう職員間で意見を出し合っ、随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもその場の状況や本人の思いが理解できるように、本人のことばを生かして記入するよう心がけている。申し送りノートを活用しながら統一したケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや、必要な物品の買い物はそのつど、状況に応じて代行する支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問ヘアカット、訪問マッサージ、主治医の訪問診療、歯科医療など、他のサービス事業者との連携で支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の望む医療機関と連携を図り、利用者本位の受診ができるよう心がけている。	入居前のかかりつけ医の情報をアセスメントシートに落とし、入居後も家族と職員が受診に同行するなど協力し合っている。家族が同行する場合は最近の体調等を記したメモを家族に渡したり、病状把握のため時には職員も一緒に同行する対応をとっている。また、定期的に往診を受けたり、急変時に訪問看護による対応もとれるなど協力医療機関との連携が図られ、利用者・家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化や傷の処置等看護職員に相談を行い、早急に利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行い、様子や状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各利用者の家族あてに「重度化や終末期に向けた指針」として方針の配布を行った。内容については運営推進会議で承認をいただいた。	入居時に「重度化や終末期に向けた支援」を利用者家族に説明し同意を得るとともに年1回は運営推進会議でも説明している。また、重度化した場合、どのように対応していくかを職員間で繰り返し話し合い、医師も含めた面談も実施している。最終的には本人家族の意向に沿う支援が行えるよう関係者間で連携し合うなど、介護体制を整えて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に掲示し、職員会議で手順について話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練については年3回、1回は自主訓練、1回は地震訓練を行っている。</p>	<p>火災や地震による津波を考慮した災害避難訓練を年3回実施しており、災害時の職員連絡網の整備や各居室のスプリンクラー、踊り場に簡易担架を設置している。備蓄については、長期保存が可能な飲料水や乾麺、ビスケット等数日分確保するとともにカセットコンロや防災頭巾、給水パック、防寒のための毛布を玄関に置くなど万一来てて準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、本人のプライバシーを損なわないような対応と声かけに努めている。紙オムツ類の保管場所について配慮を行っている。	職員会議で声のかけ方について話し合ったり、おむつが見えないよう部屋の整理に気を配っている。また、居室のポータブルトイレは、日中は浴室など別の場所で管理し、夜間使用するときには居室に設置し使用するようになっている。認知症対応やサービスの質の確保の勉強会を随時行い、日々の支援に生かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけやすい雰囲気と、ゆっくり対応することで、本人が決断できるよう、余裕を持ったケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的にケアを行うのではなく、「どうしますか」とまず尋ねるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	体質や好みに合わせた衣類選びや、季節ごとの衣替えを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キザミ、ミキサーお粥など食材の工夫からスプーンなどの使用で自分で食べることの楽しさを支援している。お盆ふきや下膳などを手伝っていただいている。	菜園でネギやピーマン、さつま芋等栽培し、おやつや食事の食材として活用している。調理の下ごしらえや食事の準備、後片付けを職員と一緒にいき、職員も利用者と同じメニューの食事を食べている。また、誕生会や敬老会等の行事食やお正月のおせち料理には利用者の嗜好に配慮したり、ソーメン流し等外食に出かけるなど食べる楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、ペットボトルに水を補充して、いつでも補水できるように準備している。また、入浴後のポカリ、食後のコーヒータム、やかんの補水介助などこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々に応じた口腔ケア介助を行っている。随時歯科訪問診療も受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に応じた排泄環境を検討し、できるだけ自身の機能を生かした排泄ができるよう心がけている。	おむつを使っている利用者も日中はトイレでの排泄を基本としており、排泄チェックを含む「ケアチェック表」にて排泄の有無等を記録しトイレへの声かけや誘導につなげている。排泄管理係を決め、おむつの消費量が多いとその原因を探り改善に向けた取り組みを提案することでおむつ代の節約やおむつを外す努力につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックにより、食事水分量運動等について検討し、必要があればオリゴ糖や下剤の調整を行い適度な排便を促すよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の心身状況に合わせ、充分に入浴が楽しめるよう支援している。無理矢理入浴することなく、清拭も取り入れている。	入浴は2日に1回を基本としているが、希望がある場合や失禁等によるシャワー浴など随時入浴できる体制を整えている。現在は個々がゆっくりとくつろいだ環境の中で入浴することができており、ベビーソープの使用や入浴後に皮膚ケアを行い、水分補給にポカリスエットを提供するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に合わせて、午睡や休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬、臨時薬処方時、職員間で申し送りし特に内容や服用に変化があった時は全員が理解できるように対応する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外気浴など個別ケアを行い、その人なりの楽しみや役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い時期に、個別の外出レクを実施している。個人の外出として希望の場所へ出かけている。	天候に合わせて日常的に事業所前の川沿いを散歩したり、屋外に出て外気浴することで五感刺激を受けるようにしている。また、初詣や桜、コスモス等の花見、ソーメン流し等、年間計画を立てて出かけるほか、個々の要望に応じて外出支援をしている。職員数の関係で利用者全員での外出は難しいが、少人数での外出を日にちを分けて行うなど工夫をして外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、一括で保管しているが、希望があれば希望に沿って買い物などを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や親戚に電話をかけたい時は、かける時間帯を見計らい電話をかけてもらっている。携帯電話を持つ事もできる。自由にかけていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の飾りを季節ごとに張り替え季節を感じていただけるように工夫している。温度調整や一日2回の換気に努めている。	畳スペースもあるリビングにはテレビやソファが置かれ、食事用のテーブルセットも利用して利用者が思い思いの場所で過ごすことができている。また、雛人形や五月人形、七夕の飾り付けを行い、季節が感じられる工夫もされており、感染症予防や室温調整にも気を配りこまめに換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを置き、それぞれにゆっくりとくつろいでテレビ視聴していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや好みのものを置いて、安心した居室になるように配慮している。家族にも協力を求めている	照明やエアコン、ベッドが備え付けてあり、他はこれまで使っていた馴染みのものを持ち込んでもらうよう伝えており、テレビや仏壇などが持ち込まれている。また、居室の掃除については利用者と職員が一緒に行い、手すり等大勢の方が触れる場所を拭いたり、コンセント周りを掃除するなど衛生面・安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況により、安全で自立した生活空間であるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの後に必ず理念の唱和を行い、キーワードである笑顔やゆとり等を意識づけるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、小中学校のリサイクル活動に協力し、ダンボールの搬出等手伝い、子供たちとふれあいを持っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議等で、ホームに入入りの薬局や青果店の方たちに参加していただき、ホームの現状を理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族から玄関のスリッパ収納について意見があり、改善したことがある。ホームで介護実習ができないかという意見があり、検討中である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>生活保護の申請寺、利用者家族スタッフが氏の担当者から説明を受けた。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月行われる職員会議で、身体拘束について意味と内容等について、くりかえし理解を深め、日頃のケアや声かけの仕方について具体的に皆で考えていく。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議のたびに、その内容と意味について反復学習し、理解を深めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人となるにあたり、利用者の診断書等の受診について支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に管理者から説明を行い、何度でも利用者の不安や疑問点到に答え納得していただくよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に相談苦情箱を設置し、面会簿の通信欄に伝言等記入していただくようにし、意見を運営に生かすようにしている。利用者居室にメモ帳を下げ記入してもらうようにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>常にスタッフと会話を持ち、得た気付きについて職員会議で話し合い、反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人の休暇については、希望に沿って受け入れている。研修や資格取得にも配慮を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1年に1回は自己啓発のため講習会参加を自主的に行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣グループホームとの連絡情報について共有を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりホームの見学を行っていただき、本人家族が充分納得された上で決定していただいている。入居後は、訴えや要望について、充分配慮して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族の心配事について聞き取り、具体的にわかりやすく説明できるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始後、身体・精神状況について深く観察し、慎重な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活でできることを探し、役割を持って生活を過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室へ案内しゆっくりと話ができるように、お茶やコーヒー等の提供を行っている。日頃の様子や報告やお小遣いの入金郵便物の渡すなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や知人の面会は、家族の承諾を得てから行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席や入浴の順番、又レクの内容についてここの思いに配慮し孤立しないで安心して過ごせるケアを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的なかわりが必要な利用者には、いつでも相談支援ができるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が納得するまで、話に耳を傾けたり、困難な時は表情やしぐさ等で本人の希望を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話を通し、これまでの生活を聞き取り、できるだけ、今までの暮らしに近づくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のリズムを把握し、本人のできることはしていただき、できることを増やしていく支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題があれば話し合い、全員で原因対処について考える。新しいアイデアや意見は介護計画に反映するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもその場の状況や本人の思いが理解できるように、本人のことばで記入するよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な体調変化時の病院受診の付き添いや、必要な物品の買い物はそのつど、状況に応じて代行する支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カット、マッサージ、主治医の訪問診療、訪問看護、歯科医療など、他のサービス事業者との連携で支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の望む医療機関と連携を図り、利用者本位の受診ができるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化や傷の処置等看護職員に相談を行い、早急に利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。必要に応じて訪問看護を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行い、様子や状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各利用者の家族あてに「重度化や終末期に向けた指針」として方針の配布を行った。内容については運営推進会議で承認をいただいた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に掲示し、職員会議で手順について話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練については年3回、1回は自主訓練、1回は地震訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、本人のプライバシーを損なわないような対応と声かけに努めている。紙オムツ類の保管場所について直接目に触れないように、配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の話に充分耳を傾け、本人の思いや希望がかなえられるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身状況にあわせた生活ペースを優先し、ゆっくりと一日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の気分や好みで身だしなみができるよう心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューが単一にならないように持ち回りで献立を作っている。。料理の盛り付け等に気配りし、食欲が湧くように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はチェック表に毎日記載し、必要に応じて水分量もチェックしている。体調変化の目安としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々に応じた口腔ケア介助を行っている。随時歯科訪問診療も受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に応じた排泄環境を検討し、できるだけ自身の機能を生かした排泄ができるよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックにより、食事水分量運動等について検討し、必要があればオリゴ糖や下剤の調整を行い適度な排便を促すよう努めている。10時のおやつに、毎回ヨーグルトを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の好む入浴温度(熱め・ぬるめ)や心身状況に合わせて、充分に入浴が楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に合わせて、午睡や休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬、臨時薬処方時、職員間で申し送りし特に内容や服用に変化があった時は全員が理解できるように対応する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合った声かけを行い、その人なりの楽しみや役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外出行事計画を実施している。季節の行事に合わせて外出を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理についてはサポート支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や親戚に電話をかけたい時は、かける時間帯を見計らい電話をかけてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁の飾りを、できるところは入居者と一緒に作成し、季節ごとに張り替え季節を感じていただけるように工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室にソファを置き、それぞれにゆっくりとくつろいでテレビ視聴されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや、家族の写真など、好みのものを置いて、安心した居室になるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況により、安全で自立した生活空間であるように配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない